

自由選択科目

群	授業科目	単位数	年次
		選択	
第1群 カウンセリング力量形成関連科目群	個別カウンセリング理論と実践	2	1
	軽度発達障害の理解と指導実践	1	1
	学習障害の理解と読み・書き・算数の指導実践	1	1
	グループダイナミクスの実践演習	1	1
	ソーシャルワーク研究	2	1
第2群 人間力UP教養科目群	ことばの力、表現力 (2012年度休講)	2	1
	歴史を学ぶ意義	2	1
	世界の教育制度・政策研究	2	1
	競争社会における教育	2	1
	教育実践からみた教育法令・法規研究	2	1
	自然体験教育を通じたグループ活動演習	1	1
	教育論議と向き合う	2	1
	教育実践の歴史に学ぶ	2	1
	いのちの教育	2	1
	教師が学ぶ情報リテラシー	2	1
	漢字・漢語と生活	2	1
	健康教育論(教育学研究科設置科目)	2	1
第3群 広領域教育職力量形成科目群	教科指導力の向上	2	1
	青少年の居場所と文化	2	1
	非行臨床の実践研究	2	1
	生涯学習コーディネーター実践研究	2	1
	少年司法と教育(教育学研究科設置科目)	2	1
	矯正教育の原理と方法	2	1
	国際教育職員力量形成演習	2	1
	教職に関するキャリア能力の開発	1	1
第4群 教育論考能力形成科目	私立学校の経営と運営 (2012年度休講)	2	2
	教育実践論文演習	2	2



※2012年度開講科目の内容は、本学Webのシラバスシステムで参照できます。
 ※1年制コースの学生は、年次に関わらず履修できます。

Ⅲ-1 履修方法（2年制修士課程）

1. 修了要件

それぞれの専攻において入学の際定められた研究指導を担当する教員を指導教員とし、論文の作成、研究一般についてはその指導に従う。

修士課程においては、通常2年以上4年以内在学し、所要の授業科目について32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格しなければならない。

合格者には「修士（教育学）」の学位が授与される。ただし、2007年度入学者より、数学教育専攻の「解析学・代数学・幾何学・情報数学・トポロジー研究指導」所属の合格者に対しては、「修士（理学）」が授与される。

2. 所要単位（32単位）の履修方法

所要単位32単位は最低限次のように履修するものとする。

【学校教育専攻】

(1) 研究指導および修士論文

研究指導を2年以上にわたり合格し、修士論文に合格する。

(2) 演習科目

指導教員が担当する演習科目（1）・（2）の計8単位を修得する。（演習（2）は2年配当）

(3) 選択科目

所属する専攻に設置されている講義科目の中から計12単位を修得する。

(4) 共通選択科目

共通選択科目・A群の科目4単位を含む計8単位を修得する。

(5) 合計32単位とするために、その他に選択し修得する科目

選択科目・共通選択科目（A群・B群）・他専攻設置の選択科目・他研究科設置の科目・大学院連合科目の中から計4単位を修得する。

なお、交流学生として慶應義塾大学（文学研究科・社会学研究科）設置の科目を履修し修得した単位は、8単位を限度として選択科目・自専攻設置の科目区分として扱う。

ただし、「他専攻設置の選択科目」・「他研究科設置の科目」・「大学院連合科目」・「交流学生としての慶應義塾大学（文学研究科・社会学研究科）設置の科目」の単位を修了に必要な単位として算入できるのは、合計で8単位を限度とする。

上記(1)～(5)を表にすると以下のようになる。

科目区分		所要単位数	算入上限 単位数	
研究指導		—	—	指導教員の研究指導が2年以上に渡り「合格」であること
演習科目		8	—	指導教員の(1)(2)を履修
選択科目	自専攻設置科目	12	16	交流学生として慶應義塾大学（文学研究科・社会学研究科）の科目を履修し修得した単位は、8単位を限度として、この科目区分の単位として扱う。
共通選択科目	A群	4	8	12
	B群	—		
他専攻設置の選択科目		—	4	
他研究科設置の科目		—		
大学院連合科目		—		
修士論文		—	—	審査および試験に合格
他に選択し修得する単位		4		
修了に要する所要単位		32		

【国語・英語・社会科・数学教育専攻】

- (1) 研究指導および修士論文
研究指導を2年以上にわたり合格し、修士論文に合格する。
- (2) 演習科目
指導教員が担当する演習科目(1)・(2)の計8単位を修得する。(演習(2)は2年配当)
- (3) 学校教育専攻設置選択科目
学校教育専攻に設置されている選択科目の中から4単位を修得する。
- (4) 選択科目
所属する専攻に設置されている講義科目の中から、「教科教育特論」4単位を含む計12単位を修得する。
- (5) 共通選択科目
共通選択科目・A群の科目の中から計4単位を修得する。
- (6) 合計32単位とするために、その他に選択し修得する科目
選択科目・共通選択科目(A群・B群)・他専攻設置の選択科目・他研究科設置の科目・大学院連合科目の中から計4単位を修得する。
なお、交流学生として慶應義塾大学(文学研究科・社会学研究科)設置の科目を履修し修得した単位は、8単位を限度として選択科目・自専攻設置の科目区分として扱う。
ただし、「他専攻設置の選択科目」・「他研究科設置の科目」・「大学院連合科目」・「交流学生としての慶應義塾大学(文学研究科・社会学研究科)設置の科目」の単位を修了に必要な単位として算入できるのは、合計で8単位を限度とする。

上記(1)～(6)を表にすると以下のようになる。

科目区分		所要 単位数	算入上限 単位数	
研究指導		—	—	指導教員の研究指導が2年以上に渡り「合格」であること
演習科目		8	—	指導教員の(1)(2)を履修
学校教育専攻設置の選択科目		4	8	
選択科目	自専攻設置の教科教育特論【注】	4	12	16
	上記以外の自専攻設置の選択科目	—		
共通選択科目	A群	4	4	8
	B群	—		
他専攻設置の選択科目		—	4	
他研究科設置の科目		—		
大学院連合科目		—		
修士論文		—	—	審査および試験に合格
他に選択し修得する単位		4		
修了に要する所要単位		32		

【注】：教科教育特論とは、

- ・国語教育専攻：国語科教育特論Ⅰ、国語科教育特論Ⅱ
- ・英語教育専攻：英語科教育特論Ⅰ、英語科教育特論Ⅱ、英語科教育特論Ⅲ、英語科教育特論Ⅳ
- ・社会科教育専攻：社会科教育特論Ⅰ、社会科教育特論Ⅱ
- ・数学教育専攻：数学科教育特論Ⅰ、数学科教育特論Ⅱ、数学科教育特論Ⅲ、数学科教育特論Ⅳ